

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

生徒一人ひとりの個性を伸ばし、グローバルな視点を持って高い志をはぐくみ、主体的に生きようとする「人生の物語を編める生徒」を育てる学校

(1) 生徒の高い志をはぐくみ、希望する進路実現のための学力を育てる学校

(2) 世界的な視野を持ち、多様な文化・価値観を持った人々を理解し、協働できる生徒を育てる学校

(3) コミュニケーション力を身につけ、自分の言葉で自分の考えを表現できる生徒を育てる学校

(4) 校訓である「自他敬愛」の心をはぐくみ、互いに支え励ましながら成長できる生徒を育てる学校

(5) 地域に信頼され愛される学校の取組みを通して、社会的貢献ができる生徒を育てる学校

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と、生徒の進路希望実現

- (1) 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業改善に取り組むとともに、希望する進路を切り拓く学力を育成する。
- ア 「東百舌鳥 Style」(「めあて」「ふり返り」の明確化による学習の定着、ICT 機器<1人1台端末を含む>の有効活用、「協調学習」を軸とした主体的な学びの推進)を全教科で実施し、教員の授業力向上を図るとともに、「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成をバランスよく行い、生徒の基礎学力の定着を図る。
- イ 基礎学力調査等を分析・活用し、生徒の希望する進路実現に必要な学力の育成に努める。
- ※生徒の学校教育自己診断における「授業の内容をわかりやすく工夫」の肯定率について80%以上を維持する。(R01:64%, R02:75%, R03:81%)
- ※生徒の学校教育自己診断における「授業でICT活用に取り組んでいる」の肯定率についてR06には100%をめざす。(R01:87%, R02:93%, R03:94%)
- ※基礎学力調査における3年生のGTZ値(国数英)について、R06年度には、A5%、B30%、C55%をめざす。(R02:A1%/B20%/C45%, R03:A1%/B18%/C49%)
- (2) 普通科専門コース制の特色を生かした教育課程を編成し、生徒の学習意欲の向上を図る。
- ア コース制の充実を図り、3年間を見通した学習指導及び進路指導計画を構築する。
- ※専門コースにおける希望する進路の実現達成率について90%以上を維持する。(R01:92%, R02:97%, R03:95%)
- (3) 個に応じた指導を充実させ、自己学習を支援する。
- ア 支援の必要な生徒実態を把握し、教職員の共通理解を促進し、支援の充実を図る。
- イ 進学及び授業補充講習を実施するとともに、自学自習のための支援体制を整備する。
- ※生徒の学校教育自己診断における「年度当初より自ら進んで学習するようになった」の肯定率をR06年度には70%以上にする。(R01:63%, R02:68%, R03:67%)

2 生徒の主体性・資質・能力の育成と、豊かな人間性の涵養

- (1) 「学びに向かう探究学習」の研究・実践を継続し、教育活動の様々な機会に生徒の言語活動の充実を図るとともに、SDGsの視点を持ちながら問題解決できる力を育成する。
- ア 生徒一人ひとりが課題に向き合い自己の在り方生き方を真剣に考える学習活動を展開しながら、生徒の問題解決能力とプレゼンテーション力を育成する。
- ※生徒の学校教育自己診断における「授業で自分の考えをまとめたり、発表したりする機会がある」の肯定率について80%以上を維持する。(R01:78%, R02:88%, R03:89%)
- (2) グローバルな視点と、多様性に対する理解力をはぐくむ。
- ア 英語コミュニケーション能力を向上させる。
- イ 外部機関との連携による異文化交流(留学生との交流等)を企画・立案し、実施する。
- ※実用英語検定受験者数(R01:123人, R02:203人 R03:151人)及び準2級以上資格保有者数(R02:53人, R03:53人)について150人以上及び50人以上を維持する。
- (3) 「自他敬愛(自らに誇りをもち、自らを大切にすること。他者を尊重し、他者を思いやる)」の心を持ったグローバルリーダーを育成する。
- ア 「ピア・サポート」活動を推進・充実させ、相手と協力し合い友好なパートナーシップを築くことで、「自他敬愛」の精神を育てる。
- (4) 特別活動・生徒会活動を通じ、生徒の自主性を重んじながら、社会的基礎力を育成する。
- ア 運営を通して自らの役割の自覚と責任感を持ち、仲間とともに一生懸命取り組み最後まで成し遂げる喜びを経験できるよう、特別活動について工夫を凝らす。
- ※生徒の学校教育自己診断における「学校行事は楽しい」の肯定率について90%以上を維持する。(R01:92%, R02:90%, R03:88%)
- ※部活動加入率をR06年度には65%以上にする。(R01:59%, R02:49%, R03:50%)

3 安全で安心な学びの環境整備と規範意識の醸成

- (1) 安全で安心な学びの場づくりを推進する。
- ア 今後予想される自然災害、疫病感染拡大を想定し、危機管理体制の充実・防災教育の取組みを充実させる。
- イ 校内の衛生管理を徹底するとともに、各委員会を中心に、生徒自身が健康管理に関する正しい知識を身に付け実践できるよう指導する。
- (2) 規範意識を向上させる取組みを推進する。
- ア 毎朝の通学指導を継続し、通学マナー及びあいさつ運動を推進するとともに、頭髪・服装・遅刻等、社会人としてのマナーについて意識を向上させる。
- イ スマートフォンや個人の端末利用時等のSNS上の人権侵害防止についての取組みを推進する。
- ※生徒の学校教育自己診断による「生活規律・学習規律の指導について理解できる」の肯定率についてR06年度には85%以上をめざす。

4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み

- (1) 研修・学習会等、教職員の資質向上をめざした取組みをさらに充実させるとともに、個々の教職員の経験年数や適性に応じた役割分担をすることで学校組織力を向上させる。
- (2) 「働き方改革」を推進し、教職員の安全及び健康の確保、職場環境の改善を図る。
- ※教職員のストレスチェックによる「健康総合リスク」の値について基準値以下(概ね良好な状態)を維持する。(R01:84, R02:94, R03:98)
- (3) 開かれた学校づくりを推進し、生徒・保護者に信頼され、地域中学生にとって「行きたい学校」となることをめざす。
- ア 学校説明会等を積極的に実施し、本校の特色ある取組みをアピールする。
- イ 本校Webページや学校クラウドサービスを活用して、最新の学校情報を内外に発信する。
- ウ 地域と密に連携し、行事等に積極的に参加する。
- ※保護者の学校教育自己診断による「クラウドサービスによる連絡は役に立っている」肯定率について90%以上を維持する。(R01:83%, R02:92%, R03:97%)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【学習指導等】</p> <p>・「授業・指導方法の工夫」についての質問に対し、生徒の肯定的回答率78%(81%)、教員は85%(86%)であり、昨年度と比べると少し下がっている。引き続き「東百舌鳥 style」での授業実践を全教員で確認・共有し、進めていく必要がある。</p> <p>・「ICTの活用」に関する質問に対し、教員の回答は92%(100%)となった。昨年度からは下がっているが、ほとんどの教員がICTの活用を意識した授業を実施している。今後は様々な活用法を共有していくことが大切である。</p> <p>【学校生活等】</p>	<p>1回【令和4年6月21日(火)】</p> <p>○学校経営計画について</p> <p>・本来の日常に戻りつつあるなか、この2年間で変化した取組みと従来の取組みをうまくマッチングさせていこうということが分かった。</p> <p>・コロナ禍であり学校生活において様々な場面で交流することに苦慮されていることと思うが、インターネットを通じて世界とつながるツールがより身近なものとなっている。全国に先駆けICTに取り組まれている東百舌鳥高校として発展することを期待している。</p> <p>・看護コースのカリキュラムについて、認知症サポーター養成講座や地域の福祉・医療施設の理解などに興味・関心が持てるような取組(地域との交流)を期待する。</p>

府立東百舌鳥高等学校

・「学校行事は楽しい」という質問に対し、生徒の肯定的回答率は89% (88%)と、昨年から1ポイント上昇した。感染予防のために制限せざるをえないところもあったが、すべての行事を予定通りに実施することができた。

・「部活動に力を入れている」という質問に対し、保護者からの肯定的回答率は80% (81%)と高めだが、実際入部率は56% (50%)で、こちらも感染症の影響で加入率が一気に下がった影響が続いていることが要因の一つとして考えられる。今後も引き続き部活動の活性化に向けて工夫をしたい。

【生徒指導等】

・保護者の「指導は理解できる」の肯定的回答率は昨年度と同じ85% (85%)と比較的高かった。本校の指導は一定の理解を得られていると思われる。今後も納得感のある指導を心がけ、社会情勢も勘案しながら指導の在り方を検証していきたい。

【学校運営等】

・保護者の「学校ホームページは充実している」の肯定的回答率61% (78%)と昨年度より17%下落している。これは、学習支援クラウドサービスの利用により、ホームページの閲覧が大幅に減少したことによると思われる。今後は多くの方に見ていただけるように内容の更新頻度を上げていきたい。

・「教職員の適正・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担」という質問に対する教職員の肯定的回答率は、昨年度より7ポイント下落し、60% (67%)と低い値となっている。学校の将来を見据えたうえで、教職員のキャリアアップを図れるような校内人事を進めていきたい。

・「相互授業見学や校内研修が計画的に実施され、教育実践に役立つ内容」という質問に対し、教職員の肯定的回答率は94% (96%)であった。今年度も授業を短縮して研修時間を確保した。とくに今年度からはじまる観点別評価について研修を重ね、本校としての観点別評価を共有することができた。

・大学において、学力は高いが受験勉強ばかりしていた学生は伸び悩む者が多い。一方、AO入試の合格者は自尊感情が高い学生が多い。その高さが次第に大きな力の差となり、自己推薦で合格した学生がトップを取るようになっている。

・ICTの活用やディスカッション、探究の発表と精緻かつ果敢に挑戦しつつ、随時間い直しながら修正している姿がよく伝わってきた。

2回【令和4年11月8日(火)】

○授業観察後の感想等

・これまでもICTの活用で第一線を走ってきた東百舌鳥高校ですが、それを行うために大変な取り組みをしていると思う。頑張ってもらいたい。

・スクール・ミッションにもあげられている校訓「自他敬愛」の精神は素晴らしい。ぜひともこれに沿った指導を心がけてほしい。

・コロナ感染症が収束せず教育活動に制限がある中、文化祭が開催されました。子供達が一生懸命頑張っている姿を見て、普段から楽しく学校生活を送っている証だと嬉しく思い、また、開催の決定や準備、生徒指導など、たくさんご苦労があったことと思う。深く感謝したい。

3回【令和5年2月8日】

○R4年度の学校評価及びR5年度の経営計画について

○令和5年度学校経営計画の目標について

・遅刻の総数に関する目標数が設定されているが、過去と比較して、大幅に改善されている。今後は総数を減少させるよりも、生徒一人ひとりの生活習慣の指導に重点をおくようにして、数値目標をあえて立てないことも必要と感じる。

・「働き方改革」について、実際に教員の残業時間を減少させる試みとして次のものを検討中または実施している。①来年度より実施される土日祝日、長期休業期間中の2校合同のクラブ活動を積極的に検討。②学校の電話受付対応時間を8時から17時30分までにして、その他を自動音声で対応する。緊急連絡についてはフォーム作成ツールで対応。③採点時間を短縮するため、デジタル採点ソフトの導入を検討。④学校クラウドサービスによる会議レジュメ等の資料のペーパーレス化を実施。

○学校教育自己診断の保護者からのホームページ評価の減少について

・昨年度は新型コロナウイルス感染症による臨時休業の連絡が幾度かあったため、保護者の方が見る機会が多かったことも、今年度減少した原因と考えられる。

・ホームページの保護者評価は下がっているが、学習支援クラウドサービスを用いた連絡による評価は非常に高い。ホームページの閲覧は誰に向けてのものなのかを吟味すべき。

○その他

・探究発表会を含む探究の活動など、教員の負担が増加する場面が多いと感じるが、頑張ってもらいたい。

・2020年度からを考えると2022年度は制限がなくなった年度であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大で培ったノウハウと今までのノウハウを上手く融合し、どう活かしていくかが重要。ペーパーレス化、デジタル採点等の新しい試みが見られる。重点目標の整理に関して、働き方改革など社会の動きに合わせた整理がなされており、細部においても工夫されているものであった。

・令和5年度は新しいことへの挑戦とコロナ禍で失われてきた行事等を新たに作っていく世代になる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R03 年度値] ※「学校教育自己診断」→「自己診断」と表記	自己評価
1 確かな学力の育成と生徒の進路希望実現	<p>(1) 「主体的・対話的で深い学び」を重視した授業改善 ア 「東百舌鳥 Style」の推進と「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力等」の育成による生徒の基礎学力の定着</p> <p>イ 基礎学力調査の有効活用</p> <p>(2) 普通科専門コース制の特色を生かした教育課程編成 ア コース制の充実</p> <p>(3) 個に応じた指導の充実と自己学習の支援 イ 自学自習のための体制整備</p>	<p>(1) ア 「東百舌鳥 Style」の推進、「観点別学習状況の評価」について、年度当初に全教員対象の研修を行い周知するとともに、定期的に研修を行い実施状況について確認する。 ・生徒の1人1台端末の活用について好事例を共有し活用を推進するとともに、非常時に備えオンライン授業の準備を常に行う。</p> <p>イ ・学習会を実施し、生徒の学力の現状を把握するとともに全教員で課題を共有する。 ・プランニング会議を中心に、基礎学力調査の有効活用について検証・修正を行い、全教員と共有することで生徒の学力向上に資する。</p> <p>(2) ア 各コース担当者会議を定期的に行い、生徒の進路実現に向けて充実した内容となるよう、コース内容の検証を行うとともに、新カリキュラムについても検証を行う。</p> <p>(3) イ 自学自習の習慣を定着させることを目的とした「ひがも塾」の存在をさらに生徒に浸透させ、生徒の意識向上に資する。</p>	<p>(1) ア ・生徒の自己診断で「授業を工夫」の肯定率を昨年度より上昇させる。[81%] ・生徒の自己診断で「ICT活用」の肯定率について95%以上を維持する。[94%] ・教員の自己診断で「研修等が役立っている」の肯定率について90%以上を維持する。[96%]</p> <p>イ ・学習会を年2回以上実施し、課題について共通認識を図る。 ・基礎学力調査の有効活用について検証結果を全教員で共有するとともに、有効な活用方法を提案する。</p> <p>(2) ア 生徒の自己診断で「各コースの進路実現率」の肯定率について90%以上を維持する。[95%]</p> <p>(3) イ 生徒の自己診断で「自ら進んで学習するようになった」の肯定率について70%以上をめざす。[67%]</p>	<p>(1) ア 生徒の学びについての研修は、時間割等の工夫を凝らし年間7回実施し、全教員で観点別評価について共有できた。 「授業を工夫」[78%] (△) 「ICT活用」 [93%] (△) 「研修が役立っている」[94%] (○) イ ・基礎学力調査についての研修は学年ごとに2回実施し、共通認識を図った。(○) ・基礎学力向上に向けて、進路指導部・プランニング会議を中心に共有・検討した。(○) (2) ア コースが生徒のニーズに合っていると思われる。今後も引き続き検証をおこなう。 ア「各コースの進路実現」[97%] (○) (3) イ 「ひがも塾」の参加者は12名 [16名] 今年度は指導方法を変更し年間を通じて学習に取り組んだ。参加者は自学自習のコツを身に着けたが、他の生徒へも広げることが必要である。 「自ら進んで学習」[73%] (○)</p>
2 生徒の主体性・資質・能力の育成と、豊かな人間性の涵養	<p>(1) 「学びに向かう探究学習」の研究・実践の継続と生徒の言語活動の充実 ア 生徒の問題解決能力とプレゼン力の育成</p> <p>(2) グローバルな視点と多様性に対する理解力の育成 ア 英語コミュニケーション能力の向上</p> <p>(3) グローバルリーダーの育成 ア ピア・サポート活動の推進</p> <p>(4) 特別活動・生徒会活動を通じた社会的基礎力の育成 ア 特別活動に関する工夫</p>	<p>(1) ア 「総合的な探究の時間 (GS)」をはじめ、あらゆる授業において、生徒が自分の考えをまとめ、発表する機会を積極的に設ける。</p> <p>(2) ア 世界共通語の1つである英語の有用性を理解させ、実用英語検定試験の受験を推奨する。</p> <p>(3) ア 生徒会役員、各部の主将等にピア・サポート研修を定期的に行い、「自己敬愛」の精神を養いながら、次世代のリーダーを育成する。</p> <p>(4) ア ピア・サポート研修を経験した生徒を中心とし、各行事(体育祭、文化祭、学校説明会、Shrike Cup等)を生徒が運営することで、社会的な基礎力を育むと同時に特別活動を活性化させる。</p>	<p>(1) ア 生徒の自己診断で「自分の考えをまとめ発表する機会がある」の肯定率について80%以上を維持する。[89%]</p> <p>(2) ア 実用英語検定試験の受験者について150人以上 準2級以上の資格保有者数について50人以上を維持する。[151人/53人]</p> <p>(3)(4) ア ・リーダー研修年3回/ピア・サポート研修年7回以上実施する。[3回/10回] ・生徒の自己診断で「学校行事は楽しい」の肯定率について90%以上をめざす。[88%] ・生徒が運営する中学生向け学校説明会のアンケートで、参加者の満足度「良かった」について95%以上をめざす。 [「大変良かった」59%/「良かった」35%] ・Shrike Cup (東百舌鳥杯)の参加中学校延べ数27校以上をめざす。[R02, R03 実施せず]</p>	<p>(1) ア あらゆる授業においてグループワーク・発表をおこなった。GS発表会を実施し、発表の機会を設けた。 「…発表する機会がある」[87%] (○) (2) ア 受験者数124人、準2級以上の資格保有者数39人となった。(△)今後も英検受験のメリットを生徒にしっかりと浸透させていく。 (3) ア ・リーダー研修は3回、ピア・サポート研修は8回実施。(○) ・各行事について制限はあったが予定通り実施することができた。満足度は目標値に届かなかったものの昨年度上回った。 「学校行事は楽しい」[89%] (○) ・生徒会執行部員、各クラブの有志がサポート隊として「オープンスクール」等で活躍した。 参加者のアンケートによると、「良くなかった」は0%であり、内容については肯定してもらえたものの、両日とも雨天のため部活動の様子を見ていただけなかった点が大きいと思われる。 「大変良かった」[58%] (肯定的評価合計は91%) (△) ・2月実施。16校参加。実施クラブの減少によるものである。次年度は実施クラブを増やすようにしたい。(△)</p>

府立東百舌鳥高等学校

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">3 安全で安心な学びの環境整備と規範意識の醸成</p>	<p>(1)安全で安心な学びの場づくり ア 危機管理体制の充実と防災教育の取組みの充実 イ 校内の衛生管理の徹底と生徒の健康管理に関する意識の醸成</p> <p>(2) 規範意識の向上をめざす取組み ア 社会人としてのマナーの指導 イ SNS に関わる人権侵害防止教育の推進</p>	<p>(1) ア マニュアルを定期的に見直し様々な災害等の場面を想定した危機管理体制を確認するとともに、防災訓練についてもこれまでの検証を基に内容を充実させる。 イ 生徒保健委員及び生徒美化委員の様々な活動を通じて、生徒全体に衛生管理・健康管理に対する意識を高める。</p> <p>(2) ア・朝の通学指導を学校全体で取り組み、通学マナーを徹底する。 ・社会人として当たり前の時間管理について指導を徹底する。 イ 外部講師による研修を行い、SNS 活用のマナーについて考え自覚する機会を作る。</p>	<p>(1) ア 教員の自己診断で「災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう役割分担がされている」の肯定率について 85%以上をめざす。[73%] イ 生徒保健委員会：前・後期各 3 回以上開催（前期には、学校保健委員会での発表を行う） 生徒美化委員会：毎月 1 回開催 [保：前後期各 3 回，美：年間 9 回]</p> <p>(2) ア・遅刻総数について前年度比減をめざす。[2847 件] イ 生徒の自己診断で「人権、社会のルールについて学ぶ機会がある」の肯定率について 85%以上をめざす。[81%]</p>	<p>(1) ア保健部を中心に例年とは違う状況を想定し、防災訓練を行った。新しい試みであったために十分周知徹底できなかったところがある。今後もあらゆる場面を想定した訓練を実施していく必要がある。また、災害発生に備えた防災活動の周知も重要である。 「災害時の役割分担」[75%] (△) イ生徒保健委員会については前・後期 3 回ずつ実施 (○) 生徒美化委員会は前・後期 3 回ずつ実施し、毎月の実施は難しかったが学内や学校周辺の美化活動を行った。(○)</p> <p>(2) ア遅刻防止の策を講じた結果、減少した。今年度遅刻数 2566 件 (◎) イ様々な場面で学習する機会を設けた。今後もしっかりと取り組んでいきたい。「学ぶ機会」[86%] (○)</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">4 教職員の資質向上と学校の組織力向上に向けた取組み</p>	<p>(1)教職員の資質向上と適材適所の人員配置による組織力向上</p> <p>(3)開かれた学校づくり ア 学校説明会の積極的な実施 イ Web ページやクラウドサービスによる情報発信</p>	<p>(1) ・授業見学週間を設け、教員間で相互に授業を観察し意見を交換することで、授業改善の一助とする。 ・月に 1 回のペースで「生徒の主体的な学び」「観点別学習状況の評価」等、日頃悩んでいるテーマの学習会を開き、自由に授業についての意見交換ができる機会を設ける。 ・個々の教職員の経験年数や適性に合った役割分担を行うことで、学校の組織力を向上させる。</p> <p>(3)アイ ・学校説明会を積極的に行い、本校の特色や魅力を伝えると同時に、Web ページ等をさらに充実させ、本校の取組みについて生徒・教職員を通じて発信する。</p>	<p>(1) ・教員の自己診断で「相互授業見学等が教育実践に役立つ」の肯定率について 90%以上を維持する。[96%] ・教員の自己診断で「教員間で授業方法等について検討する機会を作っている」の肯定率について 85%以上を維持する。[86%] ・教員の自己診断で「適正・能力に応じた校内人事がなされている」の肯定率について 60%以上を維持する。[67%]</p> <p>(3)アイ ・生徒の自己診断で「中学生時にオープンスクール等に参加した」の肯定率について 60%以上を維持する。[62%] ・保護者の自己診断で「学校クラウドサービスの連絡は役立っている」の肯定率について 90%以上を維持する。[97%]</p>	<p>(1) ・年に 2 回授業見学週間を設け、相互に授業を観察し意見交換を行った。 「教育実践に役立つ」[94%] (◎) ・「検討する機会」[83%] にはあるが、教員研修で協議する機会は充実していた。(○) ・「校内人事」[61%] となった。今後は、学校運営を見据えつつ、教職員のキャリアアップを図ることができるように検討していきたい。(○)</p> <p>(3) ・「今年の入学生の参加率」[66%] であった。今後さらに学校へ来ていただけるように内容を検討したい。(○) ・臨時休業等の緊急連絡や学校からのお知らせについて外部クラウドサービスを活用し機を逸することなく行った。「役に立っている」[96%] (○)</p>